

速報第3537号 R4.8.3発行 総務課報	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	4年 文教委員会 8月2日	質 問 者	宮川 潤 委員 日本共産党 (札幌市東区)
質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課		
<p>一 生理の貧困について</p> <p>(一) 日本共産党道議団実施のアンケートについて 日本共産党道議団は、現在アンケート調査を実施しており、その調査項目として、このような項目を設けております。「生理用品を買うのに困ったことがありますか」の問いに対し、「よくある」「ときどきある」の回答が21.7%。また、影響についても伺っているのですが、その中で「学業や仕事に集中できない」39.1%、「ストレスになっている」26.1%。他に「学校や公共施設のトイレに生理用品を設置することについてどう思いますか」との質問には、「良いと思う」の回答が100%でありました。これはまだ、アンケート調査が始まったばかりの途中段階のものでありますが、まず申し上げておきたい。</p> <p>また、本アンケートの回答用紙には自由記載欄を設けており、今回そのほとんどに記載があるのが特徴でありまして、その中で一つだけ紹介させていただきます。「小学校高学年の子にトイレを貸してほしいと言われ、了承し、後で生理用品が無くなっていることに気が付いたという方が身近にいたのに衝撃を受けた。悲しすぎる。子どもにそんなことをさせないでほしい。保健室に行けば貰えるけど、言いたくない子だっている。学校にも当たり前に置いてあげてほしい。」という内容の記載がありました。</p> <p>これらのアンケートの回答について、どのように受け止めるのか、まずお聞かせください。</p> <p>(二) コロナ禍で進行する子どもの貧困について 1 認識と対策について 貧困との関係ということになりますので、このコロナ禍で、子どもの貧困が進行しているというふうに思っておりますが、そのことについての認識、また、児童・生徒の貧困対策ということにどう取り組んでいくのか、その点伺います。</p> <p>(意見) ただいま相対的貧困世帯で収入が減ったと回答した世帯が47.4%ということだったと思います。随分大きな数字が出たというふうに思いますけれども、この中でさらに貧困が進んでいるということだと思います。事態が非常に深刻化しているというふうに感じます。</p> <p>(二) コロナ禍で進行する子どもの貧困について 2 生理用品を用意できない問題について 最初の質問の答弁で、厚労省の調査で、生理用品が用意できないことにより、女性の心身の健康に影響が生じているとの認識が示されました。より深刻化しているという事態を踏まえ、生理用品を用意できないこと、および心身の影響について、さらに踏み込んで御説明いただきたいと思っております。</p>	<p>(健康・体育課長) 生理の貧困に関するアンケートについてでございますが、先ほど、委員から、現在実施中のアンケートの一部の結果について示されたところでありますが、厚生労働省におきましても、令和4年3月に、全国3,000人を対象とした「生理の貧困が女性の心身の健康に及ぼす影響に関する調査」を公表しており、その結果によれば、新型コロナウイルス感染症発生後から現在までの間に、生理用品の購入・入手に苦労したかという質問に対し、「よくある」「ときどきある」と回答した方の割合は、全体の8.1%、これらの者のうち、「学業や仕事に集中できない」という質問に、「よくある」「ときどきある」と回答した方の割合は、34.1%となっております。こうした結果は、委員が示されたアンケートの内容とも似たような傾向があり、生理用品を用意できないことにより、女性の心身の健康に、影響が生じているものと認識しております。</p> <p>(教育政策課長) 子どもの貧困についてでございますが、内閣府が昨年初めて実施した全国の中学2年生の保護者を対象とした調査によりますと、世帯収入の中央値の半分に満たない収入の家庭は12.9%であり、そのうち、新型コロナウイルス感染症の拡大により世帯全体の収入が減ったと回答した世帯が47.4%となっております。</p> <p>道教委といたしましては、家庭の経済状況にかかわらず、等しく教育を受けることができる環境を整備することは、大変重要と考えており、就学援助制度や奨学給付金などの各種支援制度の周知や一層の利用促進を図るほか、子どもの居場所づくりの普及や相談体制の充実に向けたスクールソーシャルワーカーの配置を進めるなど、誰ひとり取り残されることなく、安心して学習に打ち込める教育環境づくりに取り組んでまいります。</p> <p>(指導担当局長) 生理用品を用意できない問題についてでございますが、厚生労働省が実施した調査の結果によりますと、生理用品の購入や入手ができないときに、交換する頻度や回数を減らしたなどの対処をしたと回答した方について、その半数以上が身体症状の不調を経験しており、また、生理用品の購入や入手に苦労したことが、「よくある」「ときどきある」と回答した方について、「ない」と回答した方と比較し、精神的な健康状態が悪い可能性が指摘されていることなどを踏まえ、家庭の経済的な理由等で生理用品が購入できないなどの状況は、女性の健康や尊厳に関わる重要な課題であり、児童生徒の心身に影響を与えるものと認識しております。</p>	<p>健康・体育課</p> <p>教育政策課</p> <p>健康・体育課</p>		

